

みやぎ森と緑の県民条例基本計画の中間見直しの方向性(第1章・第2章)

資料4-1

現行計画			見直しの方向	反映方針	
				項目追加	溶け込み
第1章 新みやぎ森林・林業の将来ビジョンの策定に当たって	第1節 (P1)	策定の趣旨 ・平成20年に「みやぎ森林・林業の将来ビジョン」を策定。 ・東日本大震災の発生や、森林を取り巻く情勢の変化を受け、平成28年度に施策の実施点検を実施。 ・平成30年度に点検結果を踏まえた内容の見直しを行い、林業・木材産業の振興と森林の整備・保全に関する施策の強化に向け、新たなビジョン(みやぎ森と緑の県民条例基本計画)を策定。	◆ 今回実施する中間見直しの経緯や趣旨について	—	○
	第2節 (P1)	付け位置 ・宮城の将来ビジョン(平成19～28年度)の個別計画として位置付け	◆ 令和2年に策定された「新・宮城の将来ビジョン」(R3～R12)と、ビジョンで新たに示された宮城の将来像について	—	○
	第3節 (P1)	性格 ・長期的な視点に立って、目指すべき森林、林業・木材産業の将来像と行政運営の理念を提示。 ・今後10年間に取り組むべきことや到達目標等を提示。	—	—	—
	第4節 (P2)	策定方法 ・宮城県産業振興審議会への諮問。 ・県の関係機関職員で組織する新みやぎ森林・林業の将来ビジョン策定委員会の設置。 ・パブリックコメントの募集。 ・県民、森林所有者、林業・木材産業事業者及び市町村等のニーズや課題を把握・分析。	◆ 今回実施する中間見直しや、見直しに係る産業振興審議会への諮問等について	—	○
	第5節 (P2)	推進方法 1 的確な進行管理の実施 毎年度の施策の実施状況の公表、PDCAサイクルによる進行管理 2 多様な主体との連携、協働による施策の推進 市町村や関係機関との連携、森林所有者・国有林・事業者・NPO等幅広い主体との協力	—	—	—
第2章	第1節 (P5)	期待される役割 1 森林の役割 (1)地球規模での環境保全に寄与 (2)私たちの安全・安心で快適な生活に寄与 2 林業・木材産業の役割 (1)森林の多面的機能の持続的発揮に寄与 (2)木材製品の安定供給に寄与 (3)地域経済の活性化に寄与 <森林の持つ多面的機能>	◆ 森林、林業・木材産業とSDGsとの関係について (SDGsについては、第4章の各取組に、17の目標のアイコンを設定)	○	—
森林・林業・木材産業をめぐり る情勢と本県の現状	第2節 (P6)	森林・林業・木材産業をめぐり る情勢の変化	◆ 「みやぎ森林・林業の震災復興プラン」終了後の復興に向けた取組について	—	○[1(1)]
			◆ 人口減少の加速化と人口減少社会を前提とした県の在り方について	—	○[2(1)]
			◆ 頻発化・激甚化する災害と森林の適正管理について	—	○[3(1)]
			◆ 2050年カーボンニュートラルの実現について	—	○[3(2)]
			◆ 新たな森林・林業基本法の策定について	—	○[4(1)]
			◆ 世界的な木材不足と価格の高騰(ウッドショック)について	—	○[5(1)]
	◆ 木材利用促進法の改正と、建築物全般における木材利用の推進について	—	○[5(3)]		
第3節 (P11)	本県森林現況と課題 1 森林資源と森林整備 森林資源は成熟し利用可能な段階、再生林や森林整備は低迷 2 林業経営基盤の状況 森林所有者の経営意欲が低下 3 県産材の需要・生産・加工関係 素材需要ニーズは多様化、需要動向を見据えた取組が必要 4 特用林産等森林資源の活用 きのこ生産は震災による風評被害などにより厳しい環境 5 森林の保全・保護 山地災害への備えから高まる森林保全・保護の重要性 6 林業の担い手関係 森林所有者の森林管理・経営意欲の減退から林業事業者の役割が高まる一方、林業事業者が減少 7 東日本大震災からの復興と発展 海岸防災林の復旧は進むが、維持・管理体制の構築が課題	◆ 経営管理制度の取組による森林整備の推進と今後の課題について	—	○[2]	
◆ 令和元年東日本台風の発生と本県における被害について		—	○[5]		
◆ 「みやぎ森林・林業未来創造機構」の設立と「みやぎ森林・林業未来創造カレッジ」の開校について		—	○[6]		
◆ 海岸防災林の復旧完了と「海岸防災林・森林づくり協議会」の設立について		—	○[7]		
◇ 必要に応じ、掲載図表・記載数値等の時点修正と文言の修正・更新を行う(全項)		—	—		